これからの人と人とのつながりのあるべき姿

ジェトロ跡地活用に係る市民検討会

2023年8月

石田光規＠早稲田大学（南流山在住）

本日の報告

- 知っておきたい地域の実情
- つながりをつくるということ
- 地域でつながりをつくるために

知っておきたい地域の実情

地域をつくるということ

- 地域づくりとは？

国土交通省の定義

✓ 地域に暮らす人びとが
✓ 自らの発意と行動によって
✓ 地域の資源を生かしながら
✓ 地域社会の課題を解決し
✓ 「よりよい暮らし」を実現していく取り組み

住民が中心
・主役

地域に誰がいて、何があるかを知る

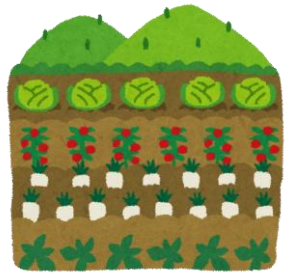
いま、今後、何が課題か認識する

住民が中心・主役になる難しさ

- 第二次世界大戦後の日本社会＝地域のつながりが失われた社会

戦前～1950年代まで

第一次産業人口が最大の農村社会



共同生活が第一の社会

1960年代～90年代初頭

サラリーマンを主体とする企業社会

✓ 働く父と子育てする母の分業
✓ 会社と家族に入る社会

住宅地としての郊外の誕生

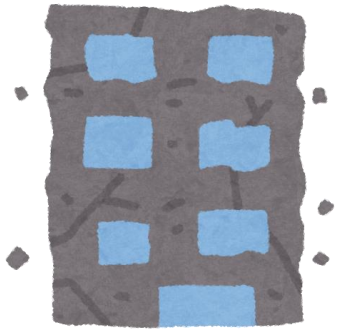
- 見知らぬ他人の集まりの場
- 失われた地域の共同性
- 地域以外に重要な場をもつ人びと（ベッドタウン）

- 期待される郊外ともがく郊外

新生活の場としての郊外
（1970～80s）

- 憧れの住まいとしての郊外・団地
- 封建的でない新しい地域として
- 活発な住民運動による自治
- イベントをつうじた結び直し

苦悩する場としての郊外
（1990s～）



- うまくいかない世代交代
- 高齢化の進む地区
- インフラ設備の老朽化

- そもそもの人の根づかなさ

長期
就職、結婚

短期
通勤、遊び

戦後

移動を前提とする社会の成立

効率的な経済の運営

個々人の意向の重視

目的にあわせて場を転々する社会

移動を「よいもの」とする社会

- ✓ 家から出て一人前
- ✓ ソトに出て成長する

根付けない地域

- そもそもの人の結びつかなさ

人と結びつかなくてもよい社会

ものの豊かさ

サービスの充実

人との共同を極限まで減らす社会

支え合いでなくサービスの利用

結ばれない人たち

・先細る地域のつながり：簡単な事実確認

深いつながりはしないし、望まない

2016年東京調査　実際の近所づきあい

つきあいはない

挨拶する程度の人がいる

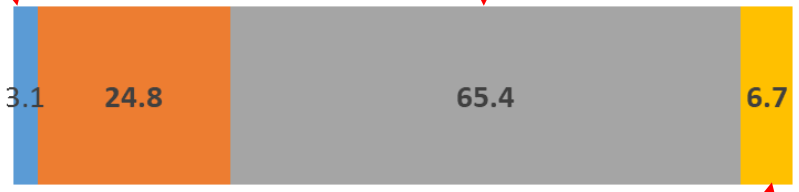
立ち話する程度の人がいる

互いに訪問し合う人がいる

望ましい近所づきあい

相談のできる親密なつき合い

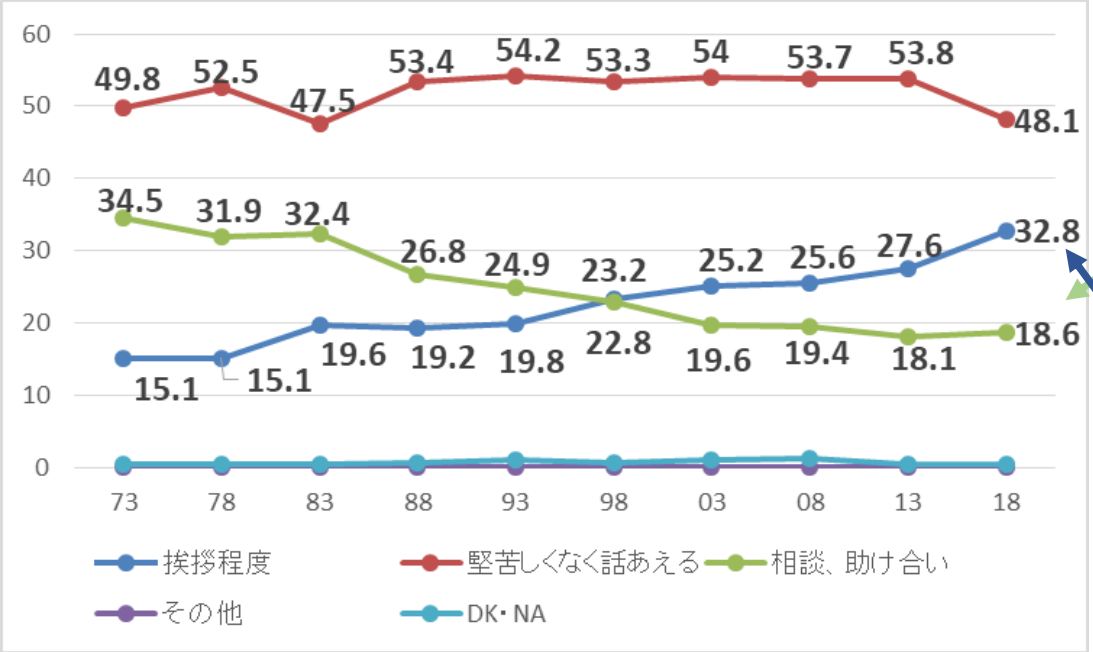
挨拶程度のつき合い



気軽に頼み事のできるつき合い

あまりおつき合いしたくない

NHK放送文化研究所『日本人の意識調査』



「相談、助け合い」のできる近所づきあいを望む人の下落（緑）

挨拶程度の近所づきあいを望む人の増加（青）

つながりをつくるということ

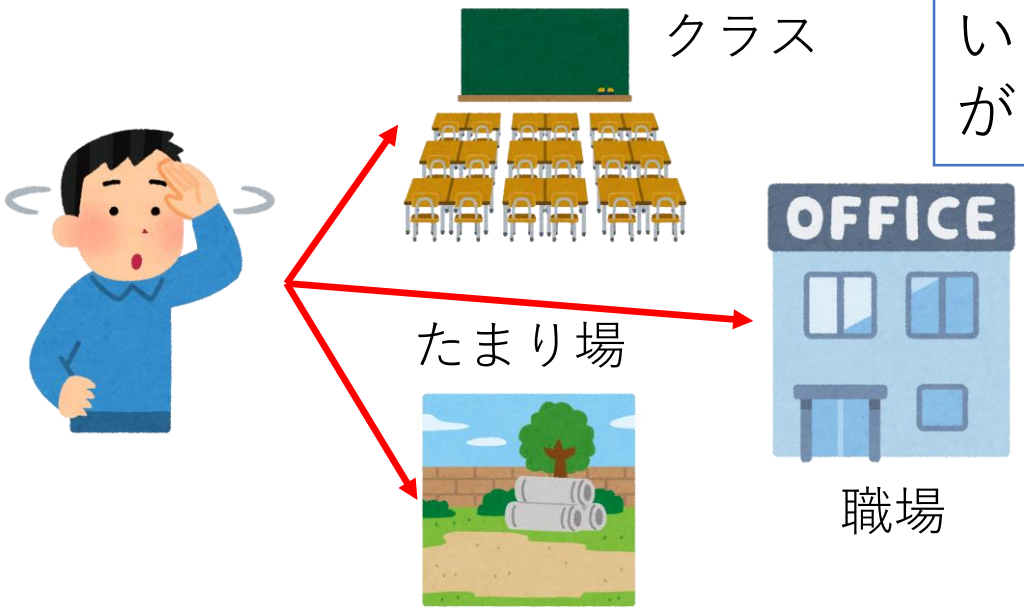
弱くなった場の力

- 1990年代に起きたもう一つの変化
  オンラインの急速な浸透

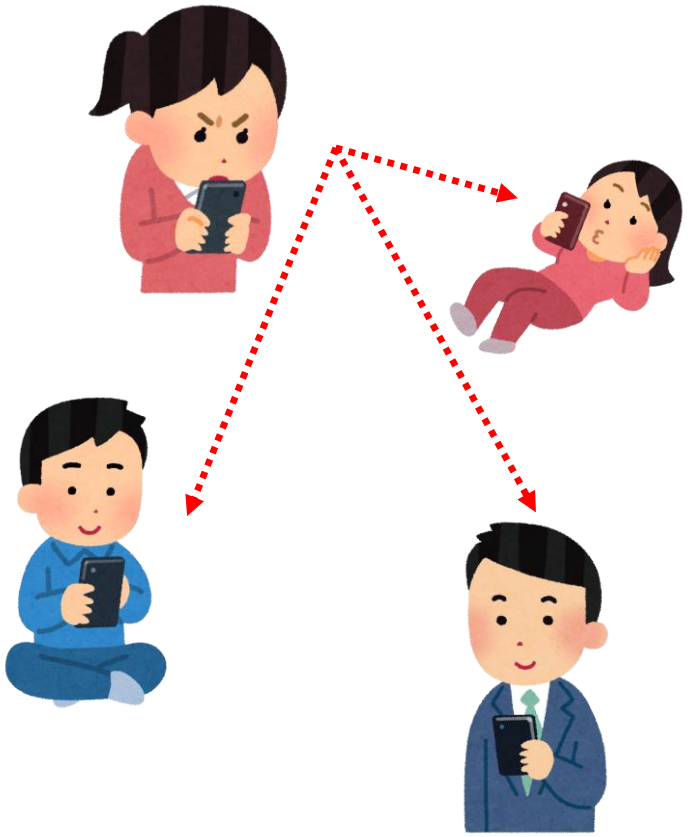
- 変わる人とのつき合い方、場の力

オンライン前の人づきあい

「場」に出向いて人とつながる



オンライン後の人づきあい



「会いたい人」を検索してつながる

変わったこと

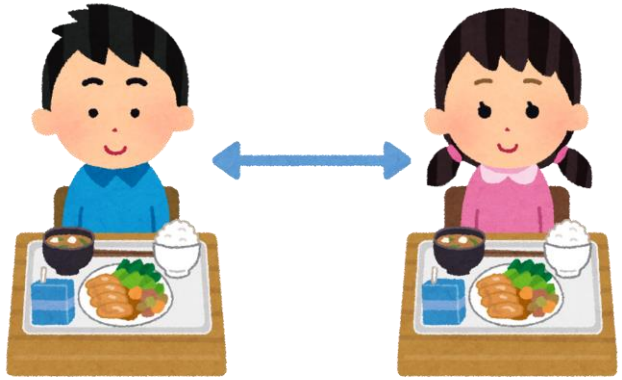
1. わざわざ「場」に出向かなくてもよくなった
2. つながりがより選別的になった
3. 誰かと会うためには理由付けが必要になった
4. ＋そもそも人と結びつかなくてもよい社会になった

- 特定の人とつき合わなくてよい社会
- つながる相手を選べる社会
- 孤立が生まれやすい社会

- 「居場所」が求められる社会
- 選んでもらう存在としての地域へ

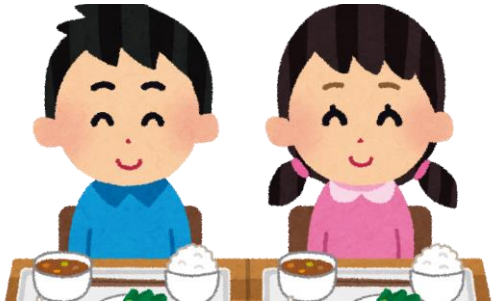
居場所、つながりをシステム化する時代

一人になりやすく、人との距離を感じる社会



- 人それぞれ
- 本音を言えない
- オンライン化
- 配慮

人とつながる機会を意図的に準備しなければならない社会



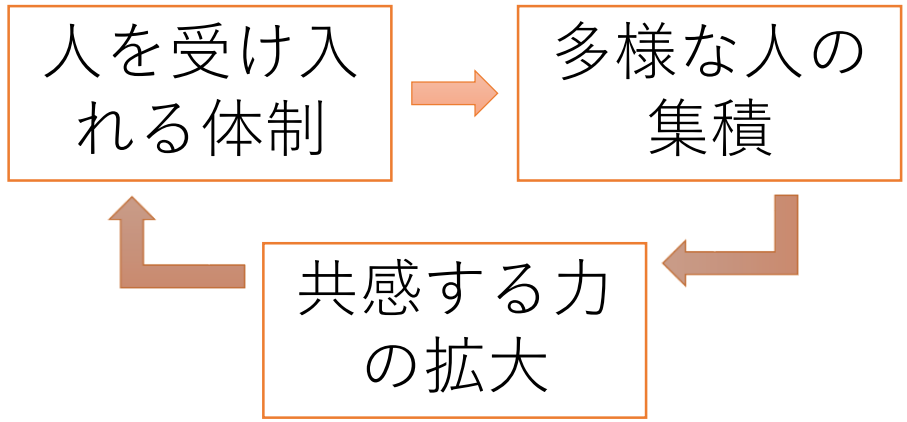
居場所を意図的に準備しなければならない社会

- かつては放っておいても人は誰かとつながっていた
- 居場所が「いるところ」以上の特別の意味をもつように

「居場所」を「つくる」ということ

- 「居場所」と「つくる」の矛盾
  - ✓「居場所」の本質：
    - ➢個々人が事後的に判断するもの
    - ➢つまり、あらかじめ設定することが難しい
    - ➢現代社会は、無目的な居場所を目的をもってつくらないといけない

- 居場所づくりのポイント：二つのアクセス
  - ✓物理的アクセス：手軽に足を運べる工夫
    - ➢近くにある
    - ➢相談・交流を押し出すことの難しさ
    - ➢日常の行動と関連させる（食事、散髪）
  - ✓心理的アクセス：気を使わず居られるために
    - ➢受容と共感の好循環



ゆるやかなつながりのススメ

- 強いつながり＝「よい」という考え方の落とし穴
  - ✓強いつながりが苦手な人もいる

- ➢ 構えすぎてしまう
- ➢ うまく話せない
- ➢ かえって疲れる

  - ✓強いつながりだからこそ装ってしまい頼れないという現象

- ゆるやかなつながりのススメ
  - ✓何かがあったとき「オン」になるようなつながりの種をまいておく
    - ➢ 手前味噌ですが卒業生の対応
  - ✓茶飲み友だちのようなつながりを見直す

地域でつながりをつくるために

頭に入れておきたいこと

- つながりのあり方は多種多様＝地域特性に応じた方策を！
  - ➢大まかな位置づけによる違い
    - ・・・たとえば、山村と郊外など
  - ➢自治体のなかでも異なるつながりづくり（東京都多摩市の例）
    - ✓駅に近く昔（明治・大正期）からの住民がいる地域
    - ✓郊外で一括開発された住宅地
    - ✓公営住宅として都に開発された団地
    - ✓昔からの住民と郊外開発の住民が混在する地域

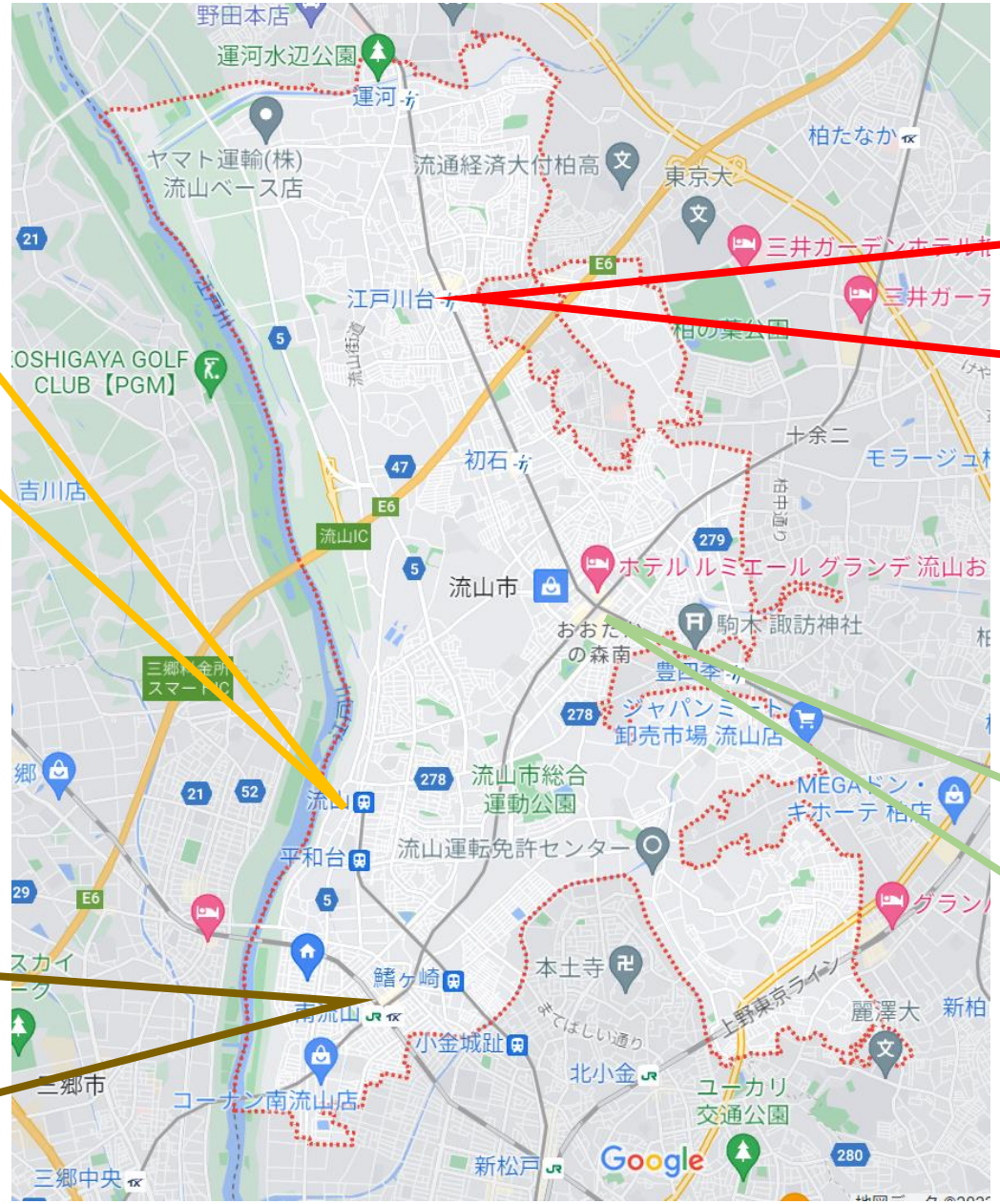
- やりたいことを思い描きつつ、無理せず持続できるものを
  - ➢自前ですべて完結させようとせず、まわりのものをうまく使う
  - ➢これまで連携していなかったものをつなぎ直してみる

本町エリア

- いわゆる地つき層の多い地域
- 資源の活用と閉鎖性
- 交通アクセスという課題

北部エリア

- 東武線とともに開発
- 歴史は長いが高齢化が進む
- 一枚岩という強み



南流山エリア

- 80年代と00年代の混入
- 高齢化と子ども施策の同時進行
- 面的な交流のうすさ

おおたかの森エリア

- 新住民の急増
- 若年層が多い
- 同じ轍を踏まないために

最後に

- 今回の事業は、地域、つながりを見直す絶好の機会
- いろいろと考え地域に「よいもの」を残していきましょう！

ご静聴ありがとうございました！